

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フッタ博士のかくれんぼ対決してくてく

国立市立国立第七小学校

平成29年11月17日 NO.69 (469)

モンタ博士「花ちゃん・オー君、そして
国立七小のみなさんに、
ステキなプレゼントだよ。」

オー君「え！プレゼント！うれしい
な。何だろな。わくわくだ。
ドキドキだね。」

モンタ博士「右の写真がプレゼントさ。」

花ちゃん「何だか植物みたいですね。」

モンタ博士「よく見てごらん。何か文字
が書いてあるだろう。」

花ちゃん「あ！『蓮』と書いてあるわ。」

オー君「ハスって、この前の『国立
てくてく』でお話ししてく
れた水生植物のハスですね。」



モンタ博士「この前、フッタ博士といっしょに国立七小の池に植えたんだよ。」

フッタ博士「夏になったら、きれいな花を咲かせてくれるとうれしいね。楽しみだね。」

花ちゃん「ありがとうございます。水辺の植物が増えることは素晴らしいことですね。」

オー君「水があれば、トンボも飛んでくるし、いろいろな生き物も集まってくるね。
つまり、学校にビオトープを作るようなものですね。」

モンタ博士「みんなが喜んでくれると、うれしいよ。」

花ちゃん「みんなでビオトープをリニューアルするということですね。楽しみですね。」

モンタ博士「そうだね。モンタ博士が国立七小に来たころは、池には、網があって魚も
いなかったし、そのとなりは雑草ばかりで、何もなかったね。」

オー君 「そうでしたね。みんなで
みぎ しゃしん
右の写真にあるように、
つち と だ
土を取り出しましたね。」

花ちゃん 「そうそう思い出しました。
そんなことがありました。」

モンタ博士 「今回、ハスを植えるのは、
がっこう
学校のビオトープをさらに

たの 楽しくするため、リニューアルのための記念として、ハスを植えることにし
きねん
たんだよ。ビオトープとは、みすべ しっち
水辺とか湿地と言ってね、そこにふさわしい
しょくぶつ
植物を植えていくつもりなんだよ。」



オー君 「これからどんな植物を植えるのですか。」

モンタ博士 「そうだね。ハスの他に、ガマやミソソバ、それからスゲの仲間、コナギやセ
なかま
キショウなど、いろいろとごそごそと土ごと持って来るから、どんな植物が
しょくぶつ
顔を出すか楽しみにしていてね。」

花ちゃん 「でも、それらの植物はどこから持ってくるのですか。」

モンタ博士 「よく聞いてくれたね。モンタ博士のおうちの近くのいろいろな湿地から、
ちか
さまざまな植物をちよいとわけてもらった来たのさ。」

オー君 「ところで、田んぼはもうやめてしまうのですか。」

モンタ博士 「そんなことはないよ。半分くらいは水田として稲を植えよう。それから、ビオ
はんぶん すいでん いね う
トープの真ん中にみんなが歩けるような通路も作る予定なんだ。」

花ちゃん 「へえー。いろいろアイデアがあるんですね。」

オー君 「いろいろな花がいっぱいの国立七小。」

花ちゃん 「いろいろな生き物いっぱい、国立七小になりますね、」

モンタ博士 「そうだね。みんなで、花いっぱい、生き物いっぴいの学校を作っていこうね。」

オー君 「そのために、ぼくたちががんばります。」

花ちゃん 「いろいろとお手伝いさせてください。」

モンタ博士 「よろしくたのむね。みんなでステキな学校づくりしていきましょう。」